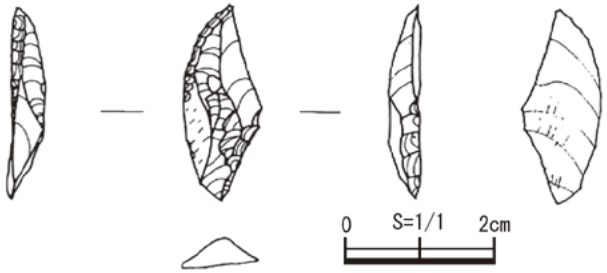
原始

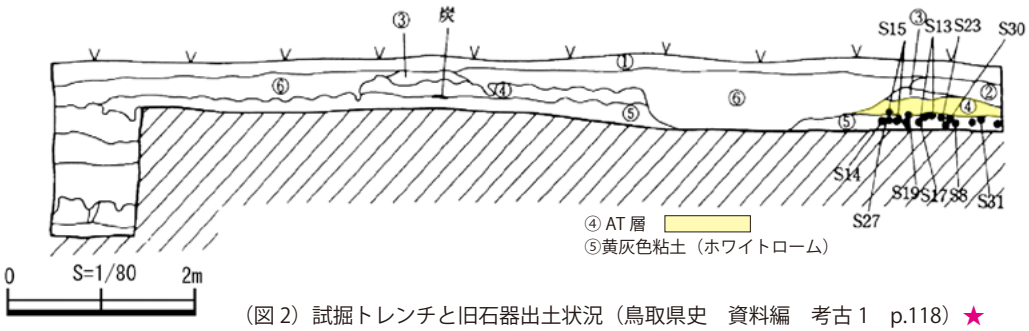
第１章　日本文化のあけぼの　1. 文化のはじまり（1）旧石器文化

# 鳥取県に人が住み始めたのは、いつからか？

（写真）豊成叶林遺跡（大山町）の石器（後期旧石器時代）★




（図 1）門前第 2 遺跡出土の石器（鳥取県史　資料編　考古 1　p.119）★




（図 2）試掘トレンチと旧石器出土状況（鳥取県史　資料編　考古 1　p.118）★

## 解説

**■いったいいつから、日本列島に人が住み始めたのか。**

その手がかりとなるのが、1つは人骨、もう 1つは人が作った道具の痕跡（石器）である。人骨については、日本列島は酸性土壌が多いため骨が残りにくい状況にある。日本列島で人が残した最古の遺跡では、現在のところ旧石器時代後期*をさかのぼる可能性が議論される遺跡がいくつかあるが、石器群を認定するための 4 つの基準、①石器に残された明確な加工痕、②偽石器が含まれる可能性のない安定した遺跡立地、③層位的な出土、④石器の複数出土、の全てに適合する遺跡は認められていない。4つの基準を満たす確実な人類活動の証拠は、日本列島では約 3万7000年前ごろから出現するといわれている（工藤 2019）。静岡県富士石遺跡第 1 文化層は最古段階の石器群の 1 つと考えられている。

**■鳥取県内では、いつから人が住み始めたのか。**

最も古い一群に属する遺跡では門前第 2 遺跡（大山町）がある。大山から派生する丘陵の先端付近に位置し、長さ 10m×幅 1mの試掘トレンチ調査により、遺跡が発見された。地質学では「地層累重の法則」があり、一般的には、下の層ほど古い。調査地では姶良丹沢火山灰（2万5000年前降下）の下の層から、黒曜石製のナイフ形石器が発見された（図 1・2）。発掘調査によって現位置を保った状態で旧石器を検出した県内初の事例である。同じ大山から派生する丘陵上に位置する豊成叶林遺跡（大山町）では、旧石器時代後期前半期における玉髄製ナイフ形石器の製作跡が調査されている（写真）。

＊**旧石器時代後期**…約 3万7000 ～ 1 万6000年前。

（担当：吉田　学）

## 参考資料


・工藤雄一郎「日本列島最古の人々」（『ここが変わる！日本の考古学』）（吉川弘文館 2019年）
・鳥取県『新鳥取県史資料編　考古 1　旧石器・縄文・弥生時代』（2017年）


★の写真及び図は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。